【年間の行事】

黒森歌舞伎は２月１５日・１７日に日枝神社への奉納として演じられています。黒森歌舞伎には年間を通していろいろな行事があります。

１．太夫振舞（３月の日曜日）

２月１５・１７日に奉納公演が終ったのち、最初に行われるのが太夫振舞です。来年に行う狂言を決定する重要な行事です。座員で総会を行った後、神社で神事が行われます。座員から選ばれた撰者がお祓いを受け、玉串を奉納した後、井戸水で水ごりを行い身を清めます。そして白米を入れた一升枡の上に置いてある、先の総会で選ばれた３つの演目が書かれたコヨリを１本釣り上げ、来年の狂言を決定します。

２．春祭り（４月２８～３０日）

４月２９日は黒森の鎮守社、日枝神社の春祭りです。

２８日には黒森地区には日枝神社と妻堂連中の２つの神宿が設けられます。夕方、御神霊を乗せた神輿が神社から迎えられ、両神宿で宵宮祭が行われます。

２９日午前に日枝神社で神事が行われた後、渡御行列が地区内を回ります。午後の妻堂連中の渡御行列には、来年の正月公演での演目の衣装を着た子どもたちが仮装し、正月公演の予告編である山車行列と一緒に練り歩きます。

３０日には両神宿渡しと花見総会が行われます。最初は、本神宿の主人が神事で使った道具を持ち、行列をなして来年の神宿まで行き、神宿渡しとなります。花見総会では、今後の事業計画等が話し合われ、その後お花見となります。お花見後、今度は妻堂連中の神宿の主人が化粧をし、歌舞伎衣装を身に着けた仮装行列で、来年の神宿まで行き神宿渡しを行います。

３．虫干し（８月中旬）

妻堂連中は衣装約５００点、カツラ約５０点を所有していますが、これらは普段演舞場裏の衣装蔵で保管されています。そして８月の天気の良い日に衣装、カツラを虫干しします。神社の境内一面にロープを張り、虫干しを兼ねた点検を行います。

４．お面開き（８月１６日頃）

黒森歌舞伎は翁と三番叟のお面を奉納したことが始まりとされています。この２つの面には神霊が宿るとされ、奉納した子孫の家で代々保管され、お面開きと正月公演以外は箱から出さないしきたりになっています。

お面開きでは、箱から出して点検した後、この面をかぶって式三番叟を舞い、芝居の安穏と地区の平和を祈願します。

５．夏歌舞伎（８月）

節目節目の年のお盆に行われる歌舞伎です。これまでは、日枝神社６００年祭、花道改修記念、プレ国民文化祭、黒森歌舞伎２７０周年などとして行われてきました。

６．役割（１２月上旬）

１２月上旬に座員総会が開かれ、来年の演目の役割が決められます。また、台本もこの日に配布されます。

７．本読み（１２月下旬）

役割が決まると、役者たちが演舞場で台本を読みます。読みながら歴史背景やその役割についての解説も行われます。

８．地固め（１月中旬）

役者や座の状況、稽古の日程、協賛金集めなどについて打合せを行うのが地固めです。この日を境にいよいよ正月公演に向けて一同が動き出します。

９．二日奴（２月２日）

二日奴とは、数十年前まで行われていた寄付願いのことです。二日に始めるので「二日奴」と呼ばれていました。妻堂連中が襦袢を着て黒森地区や近隣の村々を回りました。

現在では寄付願として、黒森地区だけでなく庄内一円の家々や企業を回って協賛金をお願いしています。

１０．　節分（２月３日）

黒森歌舞伎の節分は、若手役者が演舞場内で豆まきをします。豆まきの後、囲炉裏で生の豆１２個を焼き、その焼け具合を見て今年の天気を占う天気占いも行われます。

１１．　おさらい（２月第１日曜日）

全座員が出席して通し稽古を行い、地区民へ稽古の状況を披露します。

１２．　もちつき（２月上旬）

正月公演に寄付をいただいた人に振舞うための餅をつきます。

１３．　花道作り（２月１３日）

かつては地区民総出で仮設の芝居小屋を建てていました。常設の演舞場が出来てからは廃止されましたが、花道作りとして黒森地区の６つの自治会が持ち回りで設営・撤去を行っています。

１４．　寄せ太鼓（２月１４日）

翌日に迫った本公演の大入り満員の願いと、他地区への宣伝を兼ねて、太鼓を打ち鳴らします。

１５．　あご別れ（２月１４日）

座長より、これまでの稽古や準備に対してねぎらいのあいさつが行われ、座員が公演当日の舞台、道具、鳴り物を確認します。

１６．　本公演（２月１５・１７日）

２月１５・１７日は旧暦小正月の日です。黒森歌舞伎はこの日にあわせて、黒森の鎮守社、日枝神社に奉納されます。

１７．　勘定（２月１８日）

公演でかかった費用の精算と、神礼状を黒森地区の家々に配布する日です。精算と神礼状の配布が終ると直会が始まり、酒を酌み交わし、雑煮を食べます。